

木村 裕 教授

研 究 業 績

2026年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書（単）	『オーストラリアのグローバル教育の理論と実践 — 開発教育研究の継承と新たな展開』東信堂	2014年2月
著書（編著）	『中学校 全教科・教科外で取り組むSDGs — ESDの実践づくりの要点とアイデア』学事出版	2022年12月
著書（編著）	『生徒の個性を認めて伸ばす 中学校ポジティブ通知表所見文例集』学事出版	2025年2月
著書（共編著）	木村裕、竹川慎哉編著『子どもの幸せを実現する学力と学校 — オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・韓国・中国の「新たな学力」への対応から考える』学事出版	2019年7月
著書（共編著）	木村裕、古田薫編著『ミネルヴァ教職専門シリーズ⑥ 教育課程論・教育評価論』ミネルヴァ書房	2022年4月
著書（共）	「開発教育」大田直子、黒崎勲編著『学校をよりよく理解するための教育学2 — 教育の内容と方法（1）』学事出版、pp.110-119	2006年1月
著書（共）	「社会科の学力と思考力・判断力 — 問題分析を通してみえてくる学力実態」田中耕治編著『新しい学力テストを読み解く — PISA/TIMSS/全国学力・学習状況調査/教育課程実施状況調査の分析とその課題』日本標準、pp.67-93	2008年6月
著書（共）	「コラム④ PISA 調査における読解力」西岡加名恵、田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価 中学校 — パフォーマンス課題とルーブリックの提案』学事出版、p.46	2009年6月
著書（共）	「保健・体育科のカリキュラム」「外国語科のカリキュラム」「環境教育のカリキュラム」「国際理解教育のカリキュラム」「市民性教育のカリキュラム」田中耕治編著『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、pp.140-143、pp.156-161	2009年9月
著書（共）	「きのくに子どもの村学園と自由学校の創造 — 自由な子どもと教師が育つ学校づくりをめざして」田中耕治編著『時代を拓いた教師たちII — 実践から教育を問い直す』日本標準、pp.213-224	2009年10月
著書（共）	「1-8 教科の優れた能力/高学力 — 教科の学力をどう把握し育てるのか」「1-17 学校での集団編制 — 認知的個性の多様性を活かす集団編制のあり方」松村暢隆、石川裕之、佐野亮子、小倉正義編『ワードマップ 認知的個性 — 違いが活きる学びと支援』新曜社、pp.39-44、	2010年4月

	pp.87-92	
著書（共）	「カリキュラム」 「コラム④ オーストラリアから見た日本のカリキュラム」 佐藤博志編著『オーストラリアの教育改革 — 21世紀型教育立国への挑戦』学文社、pp.79-103	2011年4月
著書（共）	「開発教育研究から学校教育を問いなおす — 環境教育の実践に向けた新たな展望」 井上有一、今村光章編『環境教育学 — 社会的公正と存在の豊かさを求めて』法律文化社、pp.55-76	2012年4月
著書（共）	「第3章 カリキュラム」 「第5章 教育改革の展望 第4節 カリキュラムと教育方法」 佐藤博志編著『教育学の探究 — 教師の専門的思索のために』川島書店、pp.53-79、pp.125-135	2013年4月
著書（共）	「第2章【オーストラリア】カリキュラムと教育評価 第1節 カリキュラムと教育評価をめぐる動向と分析視角」(※竹川慎哉と共著) 「同第3節 学力調査に見る教育評価をめぐる取り組み」(単著) 青木麻衣子、佐藤博志編著『新版 オーストラリア・ニュージーランドの教育 — グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて』東信堂、pp.28-29、pp.34-42	2014年1月
著書（共）	「多様性を意識したカリキュラム編成と授業づくり — オーストラリアのナショナル・カリキュラムと全国学力調査に焦点をあてて」 伊井義人編著『多様性を活かす教育を考える七つのヒント — オーストラリア・カナダ・イギリス・シンガポールの教育事例から』共同文化社、pp.18-35	2015年9月
著書（共）	「オーストラリアの教育改革における教育評価の取り組み」 田中耕治編著『グローバル化時代の教育評価改革 — 日本・アジア・欧米を結ぶ』日本標準、pp.40-51	2016年2月
著書（共）	「子どもと社会に根ざす生活教育 — 生き方の探求と生活の創造をめざして」 田中耕治編著『戦後日本教育方法論史（上） — カリキュラムと授業をめぐる理論的系譜』ミネルヴァ書房、pp.67-86	2017年2月
著書（共）	「探究力を育てる教育課程」 西岡加名恵編著『教職教養講座 第4巻 教育課程』協同出版、pp.153-176	2017年2月
著書（共）	「環境教育のカリキュラム」 「国際理解教育のカリキュラム」 「プログラミング教育のカリキュラム」 「オーストラリアのカリキュラム」 田中耕治編『よくわかる教育課程 [第2版]』ミネルヴァ書房、pp.160-163、pp.172-173、pp.214-215	2018年2月
著書（共）	「第8章 主権者を育てる教育課程」 細尾萌子、田中耕治編著『新しい教育課程講座 教職教育編⑥ 教育課程・教育評価』ミネルヴァ書房、pp.110-123	2018年3月
著書（共）	「教師をめざすみなさんへ」 「第2章 授業づくりの多様性と可能性」 「コラム パフォーマンス評価とルーブリック」 「第5章 教育課程を	2019年4月

	創造する」「コラム カリキュラム・マネジメント」「第7章1 『特別支援教育』の概要と取り組みの際の留意点」「第7章4 多様な教育的ニーズに応え、多様性を生かす学校づくり」「教職入門から教職実践演習、そしてその先へ」木村裕、篠原岳司、杉浦由香里、原未来、福井雅英『教師をめざす学びのハンドブック ― 教職入門から教職実践演習まで』かもがわ出版、pp.6-10、pp.23-33、pp.59-69、pp.86-87、pp.92-93、pp.128-133	
著書（共）	「第17章 オセアニアの教育」杉本均、南部広孝監修・編著『比較教育学原論』協同出版、pp.279-287	2019年4月
著書（共）	「オーストラリア」日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム研究の動向と展望』教育出版、pp.271-274	2019年5月
著書（共）	「コラム 各国の評価事情4 オーストラリア ナショナル・カリキュラムと全国学力調査」石井英真、西岡加名恵、田中耕治編著『小学校新指導要録改訂のポイント ― 新3観点による資質・能力の評価がわかる！』日本標準、pp.108-109	2019年8月
著書（共）	「第2章【オーストラリア】カリキュラムと教育評価 第1節 カリキュラムと教育評価をめぐる動向と分析視角」（竹川慎哉と共著）「同第3節 学力調査に見る教育評価をめぐる取り組み」（単著）青木麻衣子、佐藤博志編著『第三版 オーストラリア・ニュージーランドの教育 ― グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて』東信堂、pp.28-29、pp.36-42	2020年3月
著書（共）	「第9章 揺れる日本の大学入試改革 ― その実態と挑戦」伊藤実歩子編著『変動する大学入試 ― 資格か選抜か ヨーロッパと日本』大修館書店、pp.235-264	2020年9月
著書（共）	「24 等級制と学級制」「25 学習の個別化と個性化」西岡加名恵、石井英真編著『教育評価重要用語事典』明治図書出版、pp.39-40	2021年3月
著書（共）	「持続可能な社会づくりをめざす教育活動の教育目標 ― オーストラリアでの取り組みを参考に」教育目標・評価学会編『〈つながる・はたらく・おさめる〉の教育学 ― 社会変動と教育目標』日本標準、pp.213-221	2021年8月
著書（共）	「授業計画の実際」山内紀幸、本田伊克編著『新時代の教育課程論』一藝社、pp.109-124	2022年3月
著書（共）	「多様な学際的科目の設置と探究における「型」の習得 ― オーストラリアの取り組み」伊藤実歩子編著『変動する総合・探究学習 ― 欧米と日本 歴史と現在』大修館書店、pp.180-196	2023年3月
著書（共）	「オーストラリア ― 教師や学校を支える政府の取り組み」京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター監修、西岡加名恵編『世界と日本の事例で考える学校教育×ICT』明治図書出版、pp.136-143	2023年6月

著書（共）	「探究力の保障と未来の社会づくりへの参画を意識したオーストラリアの探究的な学習」 溝邊和成、松田雅代、永井毅、長田悠佑編著『子どもと教師の学びと育ち — 新時代の探究をひらくポイント 61+α』三学出版、pp.280-284	2024年9月
著書（共）	「教育課程特例校」 日本教育方法学会編『教育方法学辞典』学文社、p.123	2024年10月
著書（共）	「SDGsに関する学習の要点と教師に求められる役割や工夫」 竹川慎哉、豊田ひさき編著『子どもがつながる、学びが深まる「発問」 — 「個別最適化時代」の教師の問い』学事出版、pp.122-132	2024年11月
著書（共）	「『持続可能な開発のための教育（ESD）』のあり方とその可能性 — 万人にとってのよりよい社会の実現をめざして」 花園大学人権教育研究センター編『花園大学人権論集 32 多様性を包む共同体は可能か？ — 他者の理解から共感へ』批評社、pp.97-128	2025年3月
論文（単）	「日本における開発教育の現状と課題」『アジア教育研究報告』（アジア教育研究会）第6号、pp.41-59	2005年6月
論文（単）	「総合的な学習の時間における開発教育の可能性と課題 — 互いの意義を生かしたカリキュラム設計に向けて」『日中教育学系合同シンポジウム論文集』（京都大学大学院教育学研究科「魅力ある大学院教育」イニシアティブ国際委員会 編集・発行）、pp.117-124	2006年8月
論文（単）	「オーストラリアの学校教育の場における開発教育の特質に関する一考察 — 1960年代から1995年までに焦点を当てて」『オセアニア教育研究』（オセアニア教育学会）第12号、pp.51-63	2006年9月
論文（単）	「南オーストラリア州のSACSAの基本的な構想に関する一考察 — 『社会と環境』の領域に焦点をあてて」『教育方法の探究』（京都大学大学院教育学研究科教育方法学講座 編集・発行）第10号、pp.33-40	2007年3月
論文（単）	「コルダーとスミスの開発教育論に関する一考察 — オーストラリアにおける理論的到達点を探る」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第53号、pp.246-259	2007年3月
論文（単）	「オーストラリアの学校教育の場における開発教育カリキュラムの特徴と意義 — 『グローバル・パースペクティブ・シリーズ』の単元分析を通して」『教育目標・評価学会紀要』第17号、pp.57-67	2007年11月
論文（単）	「現代オーストラリアの教育改革が開発教育に及ぼす影響に関する一考察 — 南オーストラリア州に着目して」『教育方法の探究』（京都大学大学院教育学研究科教育方法学講座 編集・発行）第11号、pp.9-16	2008年3月
論文（単）	「フィエンの開発教育論に関する一考察 — 開発教育と批判的教育学との関わりに焦点をあてて」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第54号、pp.193-205	2008年3月
論文（単）	「オーストラリアにおけるグローバル教育実践の具体像 — 単元『水	2009年3月

	は金よりも大切?』の授業分析を通して」『教育方法学研究』(日本教育方法学会)第34巻、pp.37-48	
論文(単)	「オーストラリアのグローバル教育プロジェクトの基本的構想とその特質」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第55号、pp.377-390	2009年3月
論文(単)	「日本におけるオーストラリアの開発教育研究の動向と今後の課題」『オセアニア教育研究』(オセアニア教育学会)第15号、pp.73-84	2009年9月
論文(単)	「オーストラリアの後期中等教育段階におけるグローバル教育実践の可能性 — 南オーストラリア州のSACEとの関わりに焦点をあてて」『人間文化』(滋賀県立大学人間文化学部紀要)32号、pp.36-45	2012年10月
論文(単)	「オーストラリアのグローバル・ピース・スクール・プログラムの成果と課題 — NGOによるグローバル教育の新たな展開」『オセアニア教育研究』(オセアニア教育学会)第17号、pp.19-35	2011年12月
論文(単)	「オーストラリアのグローバル教育における教育評価実践の方策と課題 — 南オーストラリア州の高等学校での実践の分析を通して」『教育方法学研究』(日本教育方法学会)第38巻、pp.49-60	2013年3月
論文(単)	「『持続可能な開発のための教育』における教育評価実践のあり方に関する一試論 — オーストラリアのグローバル教育研究の成果を手がかりに」『人間文化』(滋賀県立大学人間文化学部紀要)38号、pp.2-13	2015年3月
論文(単)	「オーストラリアとカナダが育成をめざす学力の内実と学力保障に向けた取り組み — 両国の取り組みから見えてくる実践への示唆」『オセアニア教育研究』(オセアニア教育学会)第21号、pp.67-82	2015年12月
論文(単)	「南オーストラリア州の学校教育の概況と近年の取り組み — カリキュラムと教育評価に焦点をあてて」『オセアニア教育研究』(オセアニア教育学会)第22号、pp.24-39	2016年12月
論文(単)	「価値観や行動に関わる指導と評価に活かすルーブリック開発の試み — オーストラリアのグローバル教育の検討をふまえて」『教育目標・評価学会紀要』第26号、pp.1-10	2016年12月
論文(単)	「学校での持続可能性に関する教育活動の実践上の要点と課題の検討 — オーストラリア・サステイナブル・スクール・イニシアティブの取り組みに焦点をあてて」『比較教育学研究』(日本比較教育学会)第58号、pp.75-94	2019年3月
論文(単)	“How Can We Prepare Learners to Realize an Equitable Society?: From the Perspective of the Sustainable Development Goals (SDGs) and Education for Sustainable Development (ESD)”, <i>Educational Studies in Japan: International Yearbook</i> , No.18, pp.55-67	2024年3月
論文(単)	「持続可能な開発のための教育(ESD)をめぐる教育目標・評価論の射程と検討課題 — 学力保障を基盤にした目標設定と教育評価の可能性を問う」『教育目標・評価学会紀要』第35号、pp.41-48	2025年12月

論文（共）	『「チーム学校」としての学校組織体制の在り方に関する比較研究 — 英・豪・NZ の事例から』『オセアニア教育研究』（オセアニア教育学会）第 23 号、pp.11-22（木村の主たる執筆担当部分は「オーストラリア事例」（pp.14-16）） （共著者：高橋望、植田みどり、木村裕、中村浩子）	2017年12月
論文（共）	「滋賀県立河瀬中学校・高等学校による『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の具体像とその特徴 — 英語科の実践事例に見る ICT 機器の役割と可能性に注目して」『人間文化』（滋賀県立大学人間文化学部紀要）46 号、pp.46-55（木村の主たる執筆担当部分は、第 1・2 節（pp.46-48）および第 5 節（pp.52-54）） （共著者：木村裕、木下雅仁）	2019年3月
論文（共）	「小学校の外国語活動における開発教育の実践事例の検討 — 実践を進めるうえでの検討課題と取り組みのあり方に焦点をあてて」『人間文化』（滋賀県立大学人間文化学部紀要）49 号、pp.32-43（木村の主たる執筆担当部分は、第 1・2 節（pp.32-34）および第 5 節（pp.40-42）） （共著者：木村裕、中陽佑）	2020年10月
論文（共）	「滋賀県立米原高等学校の取組に見る高等学校の魅力化の推進のあり方に関する一考察 — 在任中の校長による分析をふまえた手法の可能性と課題に注目して」『人間文化』（滋賀県立大学人間文化学部紀要）60 号、pp.2-12（木村の主たる執筆担当部分は、第 1 節（pp.2-4）および第 4 節（pp.9-11）） （共著者：木下雅仁、木村裕）	2026年3月
翻訳（共）	「第 4 章 パフォーマンス課題をつくる（前半）」Kay Burke（田中耕治監訳・編集）『スタンダードからルーブリックへの 6 つのステップ』（平成 19-21 年度 文部科学省科学研究費補助金研究成果中間報告書（『リテラシーの向上をめざす評価規準と評価方法の開発』）研究代表者：田中耕治）、pp.53-65	2009年2月
翻訳（共）	「高等学校（High School）」B.Bradford Brown and Mitchell J. Prinstein(eds.)（青年期発達百科事典編集委員会編集、子安増生、二宮克美監訳）『青年期発達百科事典 第 2 巻 人間・社会・文化』丸善出版、pp.166-175	2014年4月
翻訳（共）	「一般教育」「学校教育の文法」「グッドラッド、ジョン・I」「グラウンデッド・セオリー研究」「グラムシの思想」「グリーン、マキシーン」「グローバル教育」「ゲイ研究」「系譜学研究」「才能教育」「ジェンダー研究」「『自由社会における一般教育』（ハーバード赤本）」「地理教育カリキュラム」「地理教育カリキュラムの歴史」「2000 年の目標」Craig Kridel (ed.)（西岡加名恵、藤本和久、石井英真、田中耕治監訳）『カリキュラム研究事典』ミネルヴァ書房、pp.23-24、pp.100-101、pp.274-280、pp.282-286、pp.288-291、pp.296-298、pp.378-380、pp.385-389、pp.427-428、pp.544-549、pp.590-591	2021年7月

その他（単）	「21世紀型学力を読み解くための視点」『月刊 高校教育』2015年5月号、学事出版、pp.31-35	2015年5月
その他（単）	「授業づくりにおける教育方法と評価方法」『月刊 高校教育』2017年2月号、学事出版、pp.38-41	2017年2月
その他（単）	「スタンダード準拠評価と長期的ルーブリック」『指導と評価』2017年3月号、図書文化、pp.35-37	2017年3月
その他（単）	「滋賀県立彦根東高等学校 協働を通して高め合い、未来に挑戦する——先駆者精神に基づく「生徒よし、教員よし、社会よし」の取組」『月刊 高校教育』2021年3月号、学事出版、pp.8-13	2021年3月
その他（単）	「滋賀県立虎姫高等学校 自他の可能性と社会の未来を切り拓く——多様な探究学習を通じた『知の冒険』への挑戦」『月刊 高校教育』2025年2月号、学事出版、pp.8-12	2025年2月
その他（単）	「京都市立開建高等学校 自らと未来社会を創造する『協創者』の育成——『やってみたいをやってみる』を軸とした教育活動の展開」『月刊 高校教育』2025年7月号、学事出版、pp.8-12	2025年7月
その他（単）	「神戸市立葺合高等学校 自他と社会にとって最高の未来を切り拓く——国際色豊かな環境での“Global Citizen”の育成」『月刊 高校教育』2025年12月号、学事出版、pp.8-12	2025年12月
その他（単）	「滋賀県立米原高等学校 地域に愛され、地域と共に歩む——自己と向き合い、環境や社会と対話する探究学習」『月刊 高校教育』2026年4月号、学事出版、pp.8-12	2026年4月
その他（共）	「第3章 社会科の学力——思考力・判断力に焦点をあてて」平成16-18年度 科学研究費補助金 研究成果最終報告書『学力向上をめざす評価規準と評価方法の開発』（研究代表者：田中耕治）、pp.68-77	2007年3月
その他（共）	「2006年度 社会科班の活動まとめ」京都大学大学院教育学研究科（「魅力ある大学院教育」イニシアティブ カリキュラム委員会）編集・発行（研究代表者：八田幸恵）、pp.27-30	2007年3月
その他（共）	「高倉小学校と京都大学教育方法研究室との連携——大学院生から見た『プロジェクトTK』」スマイル21プラン委員会・京都市立高倉小学校『「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む高倉教育～学校・家庭・地域・大学の連携～』（平成20年度京都市立高倉小学校紀要）、pp.38-40、pp.43-44 (共著者：木村裕、徳永俊太)	2008年10月
その他（共）	「京都市立高倉小学校との共同授業研究の取り組み」『子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして』（京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター平成20年度報告書）、京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター編集・発行、pp.12-13	2009年3月

その他（共）	「第2章「社会・総合・キャリア教育部」での指導案改革 ― 学校に基礎をおくりテラシー育成のための取り組み」平成19-21年度 科学研究費補助金 研究成果最終報告書『リテラシーの育成をめざす評価規準と評価方法の開発』（研究代表者：田中耕治）、pp.73-86	2010年3月
その他（共）	「第10章 オーストラリアの全国学力調査 ― 学力保障の実現に向けた学力調査のあり方」平成19-21年度 科学研究費補助金 研究成果最終報告書『リテラシーの育成をめざす評価規準と評価方法の開発』（研究代表者：田中耕治）、pp.184-193	2010年3月
その他（共）	「第4章 カリキュラム」オセアニア教育学会研究推進委員会編集『オーストラリアの教育改革』（オセアニア教育学会研究推進委員会（2009-2010年度）報告書）、オセアニア教育学会発行、pp.52-68	2010年12月
その他（共）	「第5章 まとめ ～カリキュラムアドバイザーからの報告～」滋賀県教育委員会、滋賀県立彦根東高等学校『令和4年度（2022年度）指定WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業研究開発実施報告書 第1年次』、pp.78-81	2023年3月
その他（共）	「まとめ ～カリキュラムアドバイザーからの報告～」滋賀県教育委員会、滋賀県立彦根東高等学校『令和4年度（2022年度）指定 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業 研究開発実施報告書 第2年次』、pp.91-94	2024年3月
その他（共）	「まとめ ～カリキュラムアドバイザーからの報告～」滋賀県教育委員会、滋賀県立彦根東高等学校『令和4年度指定 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業 カリキュラム開発拠点校 研究開発実施報告書 第3年次』、pp.88-91	2025年3月
口頭発表（単）	「日本における開発教育の歴史と現状」第13回アジア教育研究会（京都大学）	2004年7月
口頭発表（単）	「開発教育における学習内容と学習プロセスの検討 ― エンパワーメントの視点から」関西教育学会第56回大会（聖和大学）	2004年11月
口頭発表（単）	「オーストラリアにおける開発教育カリキュラムの意義と課題 ― 実践集『グローバル・パースペクティブ・シリーズ』の単元分析を通して」日本カリキュラム学会第17回大会（奈良教育大学）	2006年7月
口頭発表（単）	「南オーストラリア州の学校教育の場における開発教育の位置づけに関する一考察 ― SACSA との関わりに焦点をあてて」第21回アジア教育研究会（神戸大学）	2007年3月
口頭発表（単）	「現代オーストラリアにおける開発教育の展開 ― 南オーストラリア州のSACSA との関わりに焦点をあてて」日本カリキュラム学会第18回大会（埼玉大学）	2007年7月
口頭発表（単）	「現代オーストラリアにおけるグローバル教育の現状 ― 『開発教育』から『グローバル教育』への変遷に着目して」日本カリキュラム学会	2008年7月

	第 19 回大会 (鳴門教育大学)	
口頭発表 (単)	「オーストラリアにおけるグローバル教育実践の特質 — 単元『水は金よりも大切?』の授業分析を通して」日本教育方法学会第 44 回大会 (愛知教育大学)	2008 年 10 月
口頭発表 (単)	「オーストラリアにおけるカリキュラム — ナショナル・カリキュラムを中心に」(【オセアニア教育学会研究推進グループ報告】「教育の国際的探求 — 日豪比較を中心に」の一部を担当) オセアニア教育学会第 13 回大会 (国際大学)	2009 年 12 月
口頭発表 (単)	「日本におけるオーストラリアの開発教育研究の意義に関する一考察 — 学校教育の場における実践への示唆に焦点をあてて」オセアニア教育学会第 13 回大会 (国際大学)	2009 年 12 月
口頭発表 (単)	「NGO と学校の連携によるグローバル教育実践の取り組みに関する一考察 — 南オーストラリア州での Save the Children の活動に焦点をあてて」オセアニア教育学会第 14 回大会 (東京学芸大学)	2010 年 12 月
口頭発表 (単)	「オーストラリアのカリキュラム」(【オセアニア教育学会研究推進委員会発表】の一部を担当) オセアニア教育学会第 14 回大会 (東京学芸大学)	2010 年 12 月
口頭発表 (単)	「オーストラリアにおけるグローバル教育プロジェクトが構想するグローバル教育をめぐるポリティクス」オセアニア教育学会 ECR プロジェクト第 1 回研究会 (東北大学)	2011 年 7 月
口頭発表 (単)	「オーストラリアのグローバル教育実践における教育評価の役割 — 後期中等教育修了試験との関わりに焦点をあてて」オセアニア教育学会 ECR プロジェクト第 3 回研究会 (四国学院大学)	2012 年 7 月
口頭発表 (単)	「グローバル教育における教育評価の方法と役割 — オーストラリアの学校における実践の分析を通して」(【ラウンドテーブル】「オセアニアの教育研究を通して見る日本の現状と論点」の一部を担当) オセアニア教育学会第 16 回大会 (玉川大学)	2012 年 12 月
口頭発表 (単)	「オーストラリアン・カリキュラムに見る多様性の捉え方と実践への位置づけ方」(【テーマセッション 1】「オーストラリアの教育をとおして『多様性』を考える」の一部を担当) オーストラリア学会第 26 回全国研究大会 (慶應義塾大学)	2015 年 6 月
口頭発表 (単)	「現代オーストラリアの教育改革下でのグローバル教育実践の可能性と課題 — ナショナル・カリキュラムとの関わりを中心に」日本カリキュラム学会第 26 回大会 (昭和女子大学)	2015 年 7 月
口頭発表 (単)	“How can we develop effective curriculum to ensure the development of students as active and informed citizens?” SCEAA (Social and Citizenship Education Association of Australia) Conference 2016 (Brisbane, Australia)	2016 年 9 月

口頭発表（単）	「持続可能な開発のための教育（ESD）の 評価の観点の設定に関する一考察」日本カリキュラム学会第 28 回大会（岡山大学）	2017 年 6 月
口頭発表（単）	「各国事例（1）オーストラリア」（【課題研究発表】「求められる学力の内実とその育成に向けた取り組みに関する研究 — オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、韓国、中国の事例から」の一部を担当）オセアニア教育学会第 21 回大会（東京工業大学）	2017 年 12 月
口頭発表（単）	“Discussing the Possibility of School Curriculum in Japan from the Perspective of Nurturing Global Citizens in the Digital Era” The 1st INTERNATIONAL CONFERENCE ON “The Citizenship Education of The Digital Era” (Bangkok, Thailand)	2023 年 9 月
口頭発表（単）	“Examining Teacher-Child Relationships in Education for Sustainable Development: From the Perspective of Participation in Problem Solving” The 2nd INTERNATIONAL CONFERENCE ON “Challenges and Aspirations of Citizenship Education in Asia” (Seoul, Korea)	2024 年 9 月
口頭発表（単）	“Exploring the Way to Develop Children and Adults with the Competencies to Realize a Sustainable Society: From the Perspective of Objective Setting and Assessment for Creating Schools” The 3rd INTERNATIONAL CONFERENCE ON “Asian Education in a Symbiotic Society” (Hanazono University, Japan)	2025 年 9 月
口頭発表（単） （招待講演）	「【オーストラリア】求められる学力と学力保障のための取り組み — ナショナル・カリキュラムと全国学力調査を中心に」（【テーマ研究】「カナダとオーストラリアが育成をめざす学力の内実と学力保障に向けた取り組み」の一部を担当）オセアニア教育学会第 18 回大会（桜美林大学）	2014 年 11 月
口頭発表（単） （招待講演）	「オーストラリアのグローバル教育の理論と実践 — オーストラリアにおける展開と日本への示唆」日本カリキュラム学会第 6 回研究集会（京都光華女子大学）	2015 年 3 月
口頭発表（単） （招待講演）	「地球市民の育成をめざすグローバル教育のカリキュラム編成に関する一試論 — オーストラリアのグローバル教育研究を手がかりとして」日本公民教育学会第 26 回全国研究大会（高千穂大学）	2015 年 6 月
口頭発表（単） （招待講演）	「オーストラリアのグローバル教育の検討をふまえて」（【課題研究】「社会科で習得させる知識・理解と価値観・行動の指導と評価 — 国内外の関連領域の検討をふまえて」の一部を担当）教育目標・評価学会第 26 回大会（京都教育大学）	2015 年 10 月
口頭発表（単） （招待講演）	「南オーストラリア州の場合」（【課題研究】「オーストラリア各州の教育の今とこれから」の一部を担当）オセアニア教育学会第 19 回大会（東北大学）	2015 年 12 月
口頭発表（単）	「オーストラリアのグローバル教育研究から考えるシティズンシップ	2016 年 2 月

(招待講演)	教育実践研究のあり方」(【セミナー】「シティズンシップ教育実践の発展のために、研究はどのように寄与できるか?」の一部を担当)「多様性と民主主義を視点としたシティズンシップ教育の国際比較研究」セミナー(滋賀大学大津サテライト)	
口頭発表(単) (招待講演)	「オーストラリアの事例」(【シンポジウム】『「チーム学校」としての学校組織体制の在り方に 関する比較研究 — 英・豪・NZ の事例から」の一部を担当) オセアニア教育学会第 20 回大会(四国学院大学)	2016年12月
口頭発表(単) (招待講演)	「オーストラリアにおける「持続可能性のための教育」に関する取り組みの検討」(【公開シンポジウム】「比較教育学から SDG4 を考える」の一部を担当) 日本比較教育学会第 54 回大会(東広島芸術文化ホールくらら)	2018年6月
口頭発表(単) (招待講演)	「学校現場との協働に基づく研究を進める過程でのとまどいと模索」(【課題研究Ⅱ】「学校現場との協働に基づくカリキュラム研究をどう進めるか」の一部を担当) 日本カリキュラム学会第 29 回大会(北海道教育大学旭川校)	2018年6月
口頭発表(単) (招待講演)	「学習指導案の作成と改善のための力量形成をめざす授業の内容と評価実践 — 完全オンデマンド型授業における試み」(第 2 分科会「オンライン授業における学びの成果をいかに評価するか」の一部を担当) 2021 年度 第 27 回 FD フォーラム(主催:大学コンソーシアム京都)(オンライン)	2022年2月
口頭発表(単) (招待講演)	「フィールドは地域、めざすのは私たちの未来～ESD の視点から見た総合的な学習の時間のカリキュラム開発と授業づくり～」滋賀大学教育学部附属中学校 令和 4 年度 研究協議会(オンライン)	2022年8月
口頭発表(単) (招待講演)	「令和の日本型学校教育の構築を目指した教科学習の在り方～ESD (持続可能な開発のための教育) の視点もふまえて～」香川大学教育学部附属高松中学校 令和 5 年度 研究発表会	2023年6月
口頭発表(単) (招待講演)	「「自分事」として進める探究学習について考える～ESD (持続可能な開発のための教育) の視点をふまえて～」滋賀大学教育学部附属中学校 令和 5 年度 研究協議会(パネルディスカッション「これからの総合学習とカリキュラム・マネジメント」)	2023年9月
口頭発表(単) (招待講演)	「『持続可能な開発のための教育 (ESD) 』のあり方とその可能性 — 万人にとってのよりよい社会の実現をめざして」花園大学人権教育研究会(公開講座)第 123 回例会	2024年5月
口頭発表(単) (招待講演)	「探究学習における問いの創造と対話の役割と可能性について考える — ESD (持続可能な開発のための教育) の視点をふまえて」滋賀大学教育学部附属中学校 令和 6 年度 研究協議会	2024年11月
口頭発表(単) (招待講演)	「ESD をめぐる教育目標・評価論の射程と検討課題」(「公開シンポジウム『SDGs 時代における教育の目標と評価を考える』」の一部を担当) 教育目標・評価学会第 35 回大会(東海大学)	2024年12月

口頭発表（単） （招待講演）	「未来を、ともにつくる～『市民』として、『研究者』として～」(令和6年度 WWL 高校生国際会議(兼成果報告会)における基調講演を担当) 滋賀県教育委員会、滋賀県立彦根東高等学校主催(滋賀県立文化産業交流会館)	2025年1月
口頭発表（単） （招待講演）	「日豪をつなぐ! 両国の教育方法学に関わる研究の接点の模索」(オセアニア教育学会紀要編集委員会による企画「オセアニア地域で教育学研究を進める最初のステップ」の一部を担当)(北海道大学&オンライン)	2025年2月
口頭発表（単） （招待講演）	「日本のESDの学びと探究学習」(日本学校教育学会国際交流委員会ミニ国際交流シンポジウム「『ESD時代』の国際交流を問う」における基調提案「日本のESDの学びを問う」の一部を担当) 日本学校教育学会(奈良教育大学&オンライン)	2025年2月
口頭発表（単） （招待講演）	公開シンポジウム「デジタル社会における多様性が尊重された学び— ICT×DE&Iの可能性」(京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター E.FORUM 主催)における指定討論を担当(京都大学)	2025年3月
口頭発表（単） （招待講演）	「自己の変容と社会の変革をめざす探究学習の意義とあり方について考える— 「学力保障」を軸としたESD(持続可能な開発のための教育)の視点から」 滋賀大学教育学部附属中学校 令和7年度 研究協議会	2025年11月
口頭発表（単） （招待講演）	「報告を受けて」(【シンポジウム】「日本人学校を通してみるオーストラリアと日本の学校・教師・子ども— 多文化社会の共創への教育に向けて」の一部を担当) オセアニア教育学会第29回大会(東京学芸大学)	2025年12月
口頭発表（単） （招待講演）	「教育評価の目的と多様な学習者に対する教育方法」(2025年度 北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部研修事業/北海道大学高等教育研修センター共催「多様な背景を持った学習者と教育評価」)(北海道大学&オンライン)	2026年2月
口頭発表（単） （招待講演）	「探究学習の意義と可能性を考える～私たちのよりよい未来の創造に向けて～」(2025 WWL 山梨高校生国際会議における基調講演を担当)(山梨県立甲府第一高等学校)	2026年3月
口頭発表（共）	「高倉小学校と京都大学大学院との連携による授業研究」 日本教育方法学会第42回大会(福島大学) (共同発表者: ○八田幸恵、○柴本枝美、石井英真、赤沢真世、遠藤貴広、窪田知子、木村裕/登壇者には○をつけた)	2006年10月
口頭発表（共）	【書評セッション】木村裕・竹川慎哉編著『子どもの幸せを実現する学力と学校— オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・韓国・中国の「新たな学力」への対応から考える』学事出版、2019年」 オセアニア教育学会第23回大会(三重大学)	2019年11月

	(共同発表者：○竹川慎哉、○木村裕／登壇者には○をつけた)	
--	-------------------------------	--
